



IFALPA の訓練に対する取り組み— IPTS 開催

「エアラインパイロットの訓練」について考える-2

IFALPA HUPER 委員会では 2010 年 10 月 25 日から 5 日間の日程を組み IPTS (IFALPA PILOT Training Standard) を開催しました。

このシリーズでは「エアラインパイロットの訓練について考えるのシリーズ」として IFALPA の考える「The Future of Flight Training (将来の乗員訓練)」第 2 部をお送りいたします。

3.パイロットの採用

訓練が効果的に進むため最初に必要なこととして、パイロット候補生に求められるのは、”The Right Stuff”(アメリカのノンフィクション作品で、初代の宇宙飛行飛行士を描写したもの)の中で Tom Wolfe が描いたようなエアラインパイロットになるための資質を持ち、そしてパイロットとしての人生を楽しめることである。求められる最初の要素としては、「パイロットになる」という強い願望とパイロットになるための手段を上手く組み合わせられる能力である。しかし他業界と違うプレッシャー(雇用不安、勤務地の移動)にさらされるパイロットとして、パイロットになるという強い願望の他にパイロット候補生として本当に必要なものは何であろうか？

採用にあたってパイロット候補生に求められる資質

学歴

数学、物理、力学、英語等の主要な科目を含む一般的学業成績が必要である。それはなぜかという
と忍耐力と、難問に対して学ぼうとする動機付けがあることは、パイロット候補生としての初期訓練や、乗員として生涯の訓練に対して自身の能力を適合させる力があるからである。

“Psychomotor Skills”精神運動能力

(精神活動と関連した体の動きのことで、コーディネーション能力のことを指す)

宇宙飛行士や戦闘機乗りのような精神運動能力に関する特別の能力は必要ない。エアラインパイロットとして必要なのは、コーディネーションの取れた動きができる能力であるが、その能力は基本的な能力が備わっているからこそ、訓練中にさらに形付けられ向上されるものである。それゆえに精神運動能力は入社試験の際に調べられなければならない。その能力を測るには三次元や四次元でのコーディネーション能力を測ることができるシミュレーターによる試験が有効である。

社会性

「飛ぶことに対する情熱」は、仕事として生涯に渡って乗員生活を続けていくことと、平均以上の技倆を身につけようとするのに有用である。

しかし言うまでもないが、「飛ぶことに対する情熱」は航空会社が訓練生に厳しい訓練を完遂させるために利用してはいけない。

パイロット候補生は強い問題解決力、判断力、ストレスマネジメント能力、リーダーシップ、チームワーク力を持っていなければならない。

また様々な運航形態があるため、異文化交流の能力も持っている必要がある。

身体検査要件

パイロットは長い乗員人生の中で身体検査基準に適合しなければならず、そのため採用の段階で肉体的、精神的に基準に適合していることはとても重要である。

4.採用試験の方法

パイロット候補生に対する選抜試験の目的は、初期訓練を順調に終える人材を選ぶことだけが目的なのではなく、生涯に渡って高い能力を発揮できる人材を採用することにある。そのため選抜試験は柔軟でなくてはならず、また次回の選考に前回採用された人材選考の結果が反映されるシステムが常になければならない。

パイロットの採用は、パイロットが行うのが一番よい。

パイロット採用者による要点を突いた質問は、一見出来のよいように見える受験者の欠点を見抜くことがしばしばある。

パイロットだけで採用を行うべきではないが、最終的な採用の決断はパイロットが行うべきである。

また財政状態の悪さが、よい候補者を採用する障害になってはならない。